

授業概要

心理学で用いられている統計手法について、基礎的な内容を講義する。心理学では研究対象である「人の心やその作用として表れる人の行動・態度・感情など」を、心理尺度をはじめとする何らかの測定基準に基づき測定する。そして、集めたデータをその性質に応じてさまざまな統計的手法を用いて分析し、何らかの知見を生み出していく。測定と分析を行うためには統計的手法を理解する必要がある。その基礎的な統計手法の講義を行う。

この授業では多種多様な統計的手法のうち、最も基本的な事柄を講義するが、心理学科の学生にとっては「心理学実験」等の授業において、この授業で講義する内容を利用して報告書を作成する必要があるため、基本的な事項はこの授業でしっかりと習得してほしい。

なお、この科目は公認心理師カリキュラムに対応する科目である。

授業計画

第1回	ガイダンス（授業の進め方・成績評価、など）／心理学に統計が必要な理由について
第2回	心理学における「測定」の意味（変数・尺度水準について）
第3回	記述統計1）データの整理方法（図・表の種類について）
第4回	記述統計2）要約統計量（代表値と散布度について）
第5回	記述統計3）測定値の変換（標準得点・偏差値について）
第6回	記述統計4）2変数の関係（相関分析について）
第7回	第6回のつづき）2変数の関係（クロス集計について）
第8回	記述統計のまとめ・推測統計とは何か
第9回	推測統計1）推測統計の基礎
第10回	推測統計2）統計的検定の考え方(1)標本検定と母平均の差の検定について
第11回	推測統計3）統計的検定の考え方(2)2つの平均値の差の検定について
第12回	推測統計4）統計的検定の考え方(3)分散分析について
第13回	推測統計5）統計的検定の考え方(4)相関係数の検定について
第14回	推測統計6）統計的検定の考え方(5)クロス集計とカイ2乗検定について
第15回	推測統計のまとめ・全体のまとめ
第16回	定期試験

到達目標

心理学の研究や社会調査の実施において用いられている統計手法の基本を理解する。

履修上の注意

- この授業は心理学科の専門科目である他、社会調査士取得を目指す人間文化学科の学生には資格取得に必要な科目の1つとなっている。人間文化学科の学生が履修を検討する場合は、事前に担当教員に相談することを推奨する。
- 授業でいくつかの数式を紹介するが、数式そのものを憶える必要はなく、数式が何を意味しているかについて理解してほしい。ただし、統計という性質上、「計算」という作業を完全には省けないため、基本的な計算の原則（四則計算）は理解している前提で授業を展開する。計算そのものは電卓を使用すれば良いが、計算の原則を忘れていた人は中学校1年生で修得する程度の内容は自分で復習してから履修してほしい。

予習・復習

予習よりは復習を重視してほしい。記述統計(第2回～第7回)では毎回、その日の授業内容に関する小テストを実施する。翌週は前回の小テストの解説から授業を始める。小テストの解答が基準を満たさない学生には再提出課題を渡すので、ノートや解説を基に復習してから課題を提出すること。推測統計(第9回～第14回)では講義内容が前半に比べてはるかに難しくなるため、毎回の授業内容をその日のうちに復習し、それを次回への予習とすること。

評価方法

定期試験4割、平常点(小テストの成績、再提出課題の実施状況、研究への参加協力に対する意見・感想用紙の提出などから総合的に算出)6割で評価する。第1回の講義で、評価方法の詳細を説明する。

テキスト

テキストは指定しない。授業プリントを用意し、それに沿って授業を進める。参考書は授業中に紹介する。